

ちょっと気になるデータ

大学卒初任給の統計

—平成30年賃金構造基本統計調査(初任給)の結果から—

平成30年11月に厚生労働省から「平成30年賃金構造基本統計調査(初任給)」の結果が公表された。新規学卒者の初任給^{注1}について、学歴別、企業規模別等でみることができる統計である。この中から、大学卒の新規学卒者の初任給の結果を紹介する。

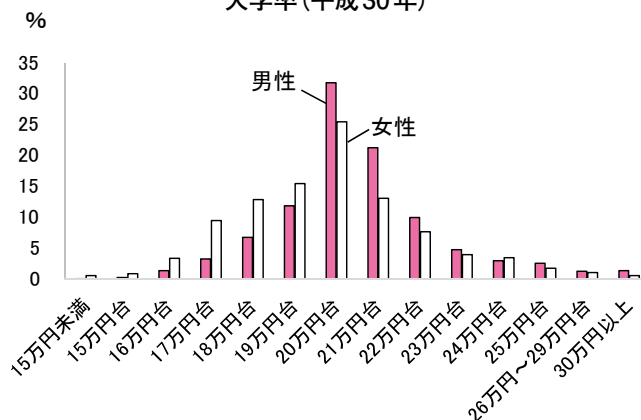
まず、男女計の初任給は206,700円で前年と比べて0.3%増加、男性は210,100円で1.1%増加、女性は202,600円で0.7%減少となっている。

次に、初任給の分布をみると、男性では20万円台が31.8%で最も多く、次いで21万円台が21.3%、19万円台が11.9%などとなっている。女性では20万円台が25.5%で最も多く、次いで19万円台15.5%、21万円台13.1%などとなっている。19万円台～21万円台で、男性は約7割、女性は約5割を占めている。

女性の初任給は前年と比べて減少しているが、その分位数^{注2}をみると、第1・十分位数は175,600円と前年から900円減少、第9十分位数は231,400円と100円増加している。

また、初任給を企業規模別^{注3}にみると、男性では「大企業」214,200円(前年比0.8%増)、「中企業」207,000円(同1.5%増)、小企業203,100円(同0.1%増)、女性では順に205,800円(同1.6%減)、200,700円(前年と同水準)、197,000円(同0.3%

初任給の分布
大学卒(平成30年)



増)となっており、規模が大きい方が高くなっている。

最後に、初任給の前年比の推移^{注4}をみると、男女とも平成4年まではおおむね4～9%の増加で推移していたが、平成5年以降は0～2%程度の増加もしくは減少で推移している。平成26年以降は増加に転じて推移しているが、直近の平成30年の女性は減少となっている。

注1 通常の所定労働時間、日数を勤務した新規学卒者の6月分所定内給与額(基本給のほか諸手当が含まれているが、超過労働給与額は含まれていない。)から通勤手当を除いたもの。

注2 分位数とは、分布の形を示す値であり、具体的には、新規学卒者を初任給の低い者から高い者へと一列に並べて、低い方から全体の10分の1番目に該当する者の初任給が第1・十分位数、高い方から数えて全体の10分の1番目に該当する者の初任給が第9・十分位数。

注3 大企業は常用労働者1,000人以上の企業、中企業は同100～999人の企業、小企業は同10～99人の企業。

注4 女性の62年までは事務系の、63年以降は事務系と技術系を合わせた初任給を用いて算出されたもの。

(調査部 統計解析担当)

